

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア さぎぬま第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
児童や保護者様に選ばれるプログラムを提供している。	外出活動や調理活動などの自立活動、工作活動においてもキーホルダー制作など手の込んだ内容を提供している。 児童の年齢層や成長度合いに応じたプログラムを提供している。	保護者様や児童からの「やってほしい」「やりたい」を募って、プログラムを提供する。
地域資源を最大限活用している。	地域の公民館や体育館を使用して運動プログラムやソーシャルスキルのプログラムを提供している。 長く、地域資源を活用しており、施設利用時の信頼も頂けている。	地域の人との関わりを増やし、地域に根差した教室を目指す。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
・お子様に分かりやすく（構造化）、安心して過ごせる環境（物理的・心理的）が整っていない	1階と2階で児童を分けて支援しており、体幹が弱い児童では転倒の危険性がある。	体幹が弱い児童の補助をする。 1階と2階の昇降のタイミングを来所持、トイレ時、退出時等のタイミングで明確にしておき、職員間での認識を統一する。
・日々の支援を行うための人数体制について、支援に必要な人数が確保されていない	1階と2階で児童の支援を分けており、1階に要担当児童、2階に自立度が高い児童を分けている。1階の要担当児童に職員が割かれている。	1階に職員が2人、2階に職員が3人で支援ができるように児童の配置を調整する。
・児童の特性や年齢、個別支援計画に沿った支援の実施。	モニタリング時や個別支援計画作成時、他の関係機関との会議の後の職員間の情報共有不足と認識の不一致。	児童の情報の更新や共有があった際は、朝礼、終礼、担当者会議を通して共有を行う。